

いんざいしこくさいかすいしんほうしん 印西市国際化推進方針 Ver.3.0



たぶんかきょうせい めざ にほんごばん
～多文化共生のまちを目指して～【やさしい日本語版】

こくさいかすいしんほうしん ■国際化推進方針 なぜつくるのか・使う期間（方針P1・2）

いんざいし しゃかい へんか いろいろ くに ひと おお す
印西市では、社会が変化し、色々な国の人が多く住むようになってきました。

これからは、外国人も日本人もお互いに文化や考え方を受け入れ、理解し、仲良く暮らせるまちをつくる
ことが大切です。

この方針は、これまで行ってきた国際化の取り組みをこれからも進めていくとともに、印西市の全体の計画
であげた「住み続けたいまち、人が交わるまちづくり」に関する計画です。外国人も日本人も印西市を好き
になり、誇りを持って住み続けたいと思うまちを目指し、この方針を作りました。

ほうしん きかん ねんかん ねん がつ ねん がつ
方針の期間（5年間）：2021年4月～2026年3月

こくさいか すす わくぐ ほうしん ほうしん ■国際化を進める 枠組みと方針（方針P13・14）

いんざいしそごうけいかく きほん かんが みらい
印西市総合計画 基本の考え ～未来のまちのイメージ～
「住みよさ実感都市 ずっと このまち いんざいで」

いんざいしだい じきほんけいかく しさく ま つづ けたいまち、ひと まじ
印西市第1次基本計画 施策3-4「住み続けたいまち、人が交わるまちづくり」 方針②：国際化を進める

ぐろーばりぜーしょんがすすみ、がいこくじんとのまじりや、がいこくからひこ してくる人が増えています。外国文化との
まじりや理解を進め、住んでいる外国人が安心して生活できるよう手伝います。

いんざいしこくさいかきほんほうしん ほうしん こくさいか すす
印西市国際化基本方針 方針：国際化を進める

【方針1】多くの文化をもつ人が 一緒に仲良く暮らすまちをつくる

しゅみん がいこく ぶんか りかい こうざ いべんと おこな がいこくじん あ きかい
市民が外国の文化を理解するための講座、イベントを行います。外国人と会う機会をつくります。

多くの文化がともに仲良く暮らすまちづくりに向けた取組を進めます。

- 施策の方向 (1) 多くの文化をもつ人がともに仲良く暮らすための雰囲気をつくる
(2) 外国人の市民が活躍する場をつくる

【方針2】外国人の市民も 安心して暮らせるまちをつくる

にほんごがわからないいんざいしに住むがいこくじんなどが安心して暮らせるよう、「やさしい日本語」やいくつかの
がいこくご し とりぐみ すす がいこくじん そうだん せいかつ ばしょをつくります。日本語を勉強する場所をつくる
てつだいをします。

- 施策の方向 (1) コミュニケーションの手伝い (2) 生活の手伝い
(3) 災害・犯罪・交通の安全を守る手伝い (4) 子どもの学校生活の手伝い

【方針1】「多くの文化を持つ人が 一緒に仲良く暮らすまちをつくる」

(1) 多くの文化をもつ人が ともに仲良く暮らすための雰囲気をつくる

- 様々な文化の違いをもつ外国人の市民と日本人が、地域の中でともに暮らしていくためには、様々なときに互いの文化を理解し、認める考え方を勉強する場所や交わる場所をつくるのが大切です。
- 国際交流協会などの活動を手伝い、協力して取り組みます。
- 他の文化の理解や、外国語を覚えるのは、子どものときから自然に慣れる方が大切なので、学校などでも進んで取り組みます。

(2) 外国人の市民が 活躍する場をつくる

- 外国人のリーダーの活躍は、地域の元気につながると期待します。
- これからの大切な取組として、地域づくりの活動に外国人の市民が参加しやすい雰囲気をつくりたい。

【方針2】「外国人の市民も 安心して暮らせるまちをつくる」

(1) コミュニケーションの手伝い

- 情報を知らせる方法と日本語教育に力を入れることは、とても大切な取組となっています。
- 英語だけではなく、「やさしい日本語」やいろいろな言語で情報を知らせることが大切になっています。
- 多く外国語に翻訳する取組を進めるとともに、最近とても便利になっている多くの言語が使えるICTツールを使い、市役所などで外国人とコミュニケーションをとりやすくなるよう力を入れます。
- 日本語教室が確実にできるよう、手伝います。

(2) 生活の手伝い

- 外国人の市民が、本当は受けられる生活や役所のサービスを、情報が入らないために受けられないようなケースをなくすには、情報を知らせるよい方法で進める必要があります。
- 必要な情報を知らせる方法や相談の窓口がよりよくなるよう、力を入れます。

(3) 災害・犯罪・交通の安全を守る手伝い

- 台風・地震・津波といった災害の理解や、自分を守る、まわりの人と助け合う、消防・救急・役所の助けにわかる災害の対応について、災害のないときからお知らせし、理解してもらい取組が大切です。
- 多くの言語で災害の情報を知らせる取組や、防災訓練への参加を勧めることで、外国人の市民が災害から命と財産を守る気持ちをもつ大切さを伝えます。災害マニュアルを見直し、災害にあった人を助けられるよう力を入れます。
- 犯罪から身を守り、交通の安全への気持ちをもってもらうため、多くの言語によるお知らせに力を入れます。

(4) 子どもの学校生活の手伝い

- 学校に行く年の子どもに気づかないため、学校に行けないことがないよう、親や子どもの面倒を見る人へのお知らせや、外国人の子どもの状況をしっかり見るよう気を付ける必要があります。
- 日本語がわからないため、学校生活に慣れない子どもには、日本語指導員のサポートを行います。
- 様々な言語を使う子どもが増えているので、その言語ができる日本語指導員を見つけて、教えるスキルを上げるための取組が大切です。子どもが学校に入ることを助けることや、日本語指導員を見つけ、育てる方法を考えます。